



# サーバユーティリティ

この章は、次の内容で構成されています。

- [テクニカルサポート データのエクスポート, 1 ページ](#)
- [CIMC の再起動, 2 ページ](#)
- [CIMC の出荷時デフォルトへのリセット, 3 ページ](#)
- [CIMC コンフィギュレーションのエクスポートおよびインポート, 4 ページ](#)

## テクニカル サポート データのエクスポート

このタスクは、Cisco Technical Assistance Center (TAC) から要求された場合に実行します。このユーティリティは、TAC が技術上の問題をトラブルシューティングおよび解決する際に役立つ設定情報、ログ、および診断データが含まれる要約レポートを作成します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# <b>scope cimc</b>	CIMC コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /cimc # <b>scope tech-support</b>	テクニカル サポート コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server /cimc/tech-support # <b>set tftp-ip ip-address</b>	サポート データ ファイルを保存する必要のある TFTP サーバの IP アドレスを指定します。
ステップ 4	Server /cimc/tech-support # <b>set path path/filename</b>	サーバでサポート データを保存する必要のあるファイルの名前を指定します。この名前を入力するときは、ファイルの相対パスを、TFTP ツリーの最上位から目的の場所まで含めてください。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	Server /cimc/tech-support # <b>commit</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 6	Server /cimc/tech-support # <b>start</b>	TFTP サーバへのサポートデータファイルの転送を開始します。
ステップ 7	Server /cimc/tech-support # <b>show detail</b>	ファイルのアップロードのステータスを表示します。
ステップ 8	Server /cimc/tech-support # <b>cancel</b>	(任意) TFTP サーバへのサポートデータファイルの転送を取り消します。

次に、サポートデータファイルを作成し、そのファイルを TFTP サーバに転送する例を示します。

```
Server# scope cimc
Server /cimc # scope tech-support
Server /cimc/tech-support # set tftp-ip 10.20.30.41
Server /cimc/tech-support *# set path /user/user1/supportfile
Server /cimc/tech-support *# commit
Server /cimc/tech-support # start
Server /cimc/tech-support # show detail
```

### 次の作業

生成されたレポート ファイルを Cisco TAC に提供します。

## CIMC の再起動

現在実行されているファームウェアで問題が発生した場合など、非常に珍しいケースですが、サーバのトラブルシューティング時に、CIMC の再起動が必要になることがあります。この手順は、通常のサーバメンテナンスには含まれません。CIMC を再起動した後にログオフすると、CIMC は数分間使用できません。



(注) サーバが電源投入時自己診断テスト (POST) を実行しているとき、または Extensible Firmware Interface (EFI) シェルを操作しているときに CIMC を再起動すると、サーバの電源は、CIMC の再起動が完了するまでオフになります。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# <b>scope cimc</b>	CIMC コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /cimc # <b>reboot</b>	確認のプロンプトが表示されたら、CIMC を再起動します。

次に、CIMC を再起動する例を示します。

```
Server# scope cimc
Server /cimc # reboot
This operation will reboot the CIMC.
Continue?[y|N]y
```

## CIMC の出荷時デフォルトへのリセット

現在実行されているファームウェアで問題が発生した場合など、非常に珍しいケースですが、サーバのトラブルシューティング時に、CIMC の出荷時デフォルトへのリセットが必要になることがあります。これを行うと、ユーザが設定可能なすべての設定がリセットされます。

この手順は、通常のサーバメンテナンスには含まれません。CIMC をリセットした後は、ログオフしてから再びログインする必要があります。また、接続が失われ、ネットワーク設定を再び指定する必要がある場合もあります。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# <b>scope cimc</b>	CIMC コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /cimc # <b>factory-default</b>	確認プロンプトの後に、CIMC が出荷時デフォルトにリセットされます。

CIMC の出荷時デフォルトには、次の条件が含まれます。

- CIMC CLI へのアクセス用に、SSH がイネーブルになっている。
- CIMC GUI へのアクセス用に、HTTPS がイネーブルになっている。
- 単一ユーザアカウントが存在している（ユーザ名は `admin`、パスワードは `password` です）。
- 管理ポートで DHCP がイネーブルになっている。
- ブート順が EFI、CDROM、PXE（LoM を使用）、FDD、HDD になっている。

- KVM と vMedia がイネーブルになっている。
- USB がイネーブルになっている。
- SoL がディセーブルになっている。

次に、CIMC を出荷時デフォルトにリセットする例を示します。

```
Server# scope cimc
Server /cimc # factory-default
This operation will reset the CIMC configuration to factory default.
All your configuration will be lost.
Continue?[y|N]
```

# CIMC コンフィギュレーションのエクスポートおよびインポート

## CIMC コンフィギュレーションのエクスポートおよびインポート

CIMC コンフィギュレーションのバックアップを実行するには、システム設定のスナップショットを作成し、ネットワーク上のロケーションに結果の CIMC コンフィギュレーションファイルをエクスポートします。エクスポート操作では、管理プレーンの情報だけが保存されます。サーバのデータはバックアップされません。ユーザアカウントやサーバ証明書などの機密性の高い設定情報はエクスポートされません。

エクスポートされた CIMC コンフィギュレーションファイルは、同じシステムに復元できます。また、インポートするシステムのソフトウェアバージョンとエクスポートするシステムのソフトウェアバージョンが同じであるか、または設定の互換性があれば、別の CIMC システムにインポートすることもできます。設定テンプレートとして別のシステムにコンフィギュレーションファイルをインポートした場合は、IP アドレスやホスト名など、システム固有の設定を修正する必要があります。インポート操作によって情報が変更されるのは、管理プレーンだけです。

CIMC コンフィギュレーションファイルは、構造と要素が CIMC コマンドモードに対応する XML テキスト ファイルです。

エクスポートまたはインポート操作を実行する場合は、次の注意事項に従ってください。

- エクスポートまたはインポートは、システムが起動されて動作している間に実行できます。エクスポート操作はサーバまたはネットワークトラフィックに影響しませんが、インポート操作によって IP アドレスの変更など一部の修正が発生すると、トラフィックの中断またはサーバのリブートが発生することがあります。
- エクスポートとインポートを同時に実行することはできません。

## CIMC コンフィギュレーションのエクスポート



(注) セキュリティ上の理由から、この操作ではユーザアカウントおよびサーバ証明書はエクスポートされません。

### はじめる前に

- バックアップ TFTP サーバの IP アドレスを取得します。
- コンフィギュレーションファイルをインポートする場合に SNMP 設定情報を復元するオプションを使用する場合は、コンフィギュレーションファイルを作成する前に、SNMPがこのサーバでイネーブルであることを確認します。設定のエクスポート時に SNMP がディセーブルの場合、CIMC では、ファイルをインポートしたときに、SNMP 値を適用しません。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# <b>scope cimc</b>	CIMC コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /cimc # <b>scope import-export</b>	import-export コマンド モードを開始します。
ステップ 3	Server /cimc/import-export # <b>export-config tftp-ip-address path-and-filename</b>	バックアップ操作を開始します。コンフィギュレーションファイルは、指定した IP アドレスの TFTP サーバで指定されたパスとファイル名で保存されます。

エクスポート操作が正常に完了したかどうかを確認するには、**show detail** コマンドを使用します。操作を中止するには、CTRL+C キーを押します。

次に、CIMC コンフィギュレーションをバックアップする例を示します。

```
Server# scope cimc
Server /cimc # scope import-export
Server /cimc/import-export # export-config 192.0.2.34 /ucs/backups/cimc5.xml
Export config started. Please check the status using "show detail".
Server /cimc/import-export # show detail
Import Export:
  Operation: EXPORT
  Status: COMPLETED
  Error Code: 100 (No Error)
  Diagnostic Message: NONE

Server /cimc/import-export #
```

## CIMC コンフィギュレーションのインポート

### はじめる前に

コンフィギュレーション ファイルをインポートするときに、SNMP 設定情報を復元する場合は、インポートを行う前に SNMP がこのサーバでディセーブルになっていることを確認します。インポートを実行するときに SNMP がイネーブルの場合、CIMC ではコンフィギュレーション ファイルに保存されている値で現在の値を上書きしません。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# <b>scope cimc</b>	CIMC コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /cimc # <b>scope import-export</b>	import-export コマンドモードを開始します。
ステップ 3	Server /cimc/import-export # <b>import-config</b> <i>ftp-ip-address</i> <i>path-and-filename</i>	インポート操作を開始します。指定した IP アドレスの TFTP サーバで指定されたパスとファイル名で、コンフィギュレーションファイルはインポートされます。

インポート操作が正常に完了したかどうかを確認するには、**show detail** コマンドを使用します。操作を中止するには、CTRL+C キーを押します。

次に、CIMC コンフィギュレーションをインポートする例を示します。

```
Server# scope cimc
Server /cimc # scope import-export
Server /cimc/import-export # import-config 192.0.2.34 /ucs/backups/cimc5.xml
Import config started. Please check the status using "show detail".
Server /cimc/import-export #
```